

## ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部診療放射線学

名前 谷川原 綾子

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

診療放射線学科において臨床系科目を中心とした教育を行うとともに、医療情報分野に係る研究活動を行っている。主な教育活動は、画像検査における撮影技術や画像解剖、初年次導入教育（フレッシュマンセミナー）、臨床実習前教育であり、その他、ゼミ生に対する卒業研究、就職、国家試験対策の指導を行っている。

### 【理念】

近年、医療技術が高度化している中、放射線医療においても、新しい画像診断技術や放射線治療法などが開発され、放射線技術も大きな変革の時を迎えている。これらの新たな技術を使いこなすためには、そのベースとなる知識、技術を大学にて習得させることが重要であると考えている。診療放射線技師に必要とされる知識は、医療、画像、診療機器など幅が広く、これらを効率的に4年間で修得する必要がある。そのため、学生自身が自主的に学ぶ力を育てるとともに、実際の事例に基づきながら、修得した知識や技術が臨床の場でどのように活用できるのかイメージできるような指導を行う。国家資格を取得した暁には、大学で学んだ知識を活用し、さらには、自ら技術を発展させられるような診療放射線技師になってもらいたい。

### 【方針・方法】

診療放射線技師になるためには、上記で述べた通り、多様な知識の修得が必要となる。その実現のために、「概念の理解」、「基礎知識の定着」、「事例の提示と技術の修得」、「修得した知識の応用」という方針で教育を行う。

#### 「概念の理解」

・講義では、高校までに触れてこなかった概念に触れることが多く、修得に時間がかかってしまう。そのため、平易な事例を交えて、概念がイメージしやすい資料を作成し講義を進めている。

#### 「基礎知識の定着」

・毎回、講義の冒頭に国家試験に関連した小テストを実施している。小テスト終了後には解答解説を行い、知識の確実な定着を図っている。小テストの点数は成績に反映される。加えて、講義中にも、理解度を確認するために説明したトピックに関するミニテストも実施している。

#### 「事例の提示と技術の修得」

・撮影技術に関する講義では、現場での患者接遇や撮影上の工夫などを伝えている。また、患者接遇に関して、現場で起こりうる事例やトラブルを提示し、正解がない中でどのように対処をすべきか考える場を設けている。

・臨床実習前指導においては、臨床に直結した撮影技術や患者さんとのコミュニケーション法を指導している。

#### 「修得した知識の応用」

・卒業研究では、3年生までに修得した知識や技術ベースに、最新技術への理解を深め、どのように現場に応用できるか考え、発表できる場を設けている。

#### 【成果・評価】

- ・学生による授業評価アンケートの結果では概ね満足している結果が得られている。
- ・臨床実習前実技試験では、臨床実習前から学生の患者への対応について高評価をいただいている。
- ・多くのゼミ生が、全国や地方での学会発表を行い、これまでに2名が賞を受賞した。また、成果の一部は国際学会や学術論文としても発表した。
- ・国家試験合格率の向上ため、問題の分析を行い臨床系の問題の指導に反映した。
- ・国家試験全国模試の担当科目については全国平均以上の得点が取れている。
- ・学生の特性を生かした就職指導を行い、病院や企業へ就職している。

#### 【目標】

##### (長期目標)

- ・学生自身が自主的・効率的に勉強できる資料作成や環境づくり
- ・卒業してからの臨床現場でも役立つ内容の教材開発

##### (短期目標)

- ・授業での理解度やコメントを聞き取り、知識の定着を確認できるような仕組みづくり
- ・診療放射線技師として必要な知識を確認しつつ、臨床現場へ反映できるような指導